
呼吸するしかない

宇ノ鹿 すい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

呼吸するしかない

【Nコード】

N7694P

【作者名】

宇ノ鹿 すい

【あらすじ】

ああああああああああああああああああああ

「嫌気がさしたんだ。だから君を見下すことで僕は尊厳を保とうと思う。なぜならば理由なんてのはいくらでも作ることが出来て、実際の行動に起こせば、その他人を苦痛に思わせることは出来るんだ。なぜかといえば僕はネット弁慶だから。ここなら低リスクで他人に苦痛を感じさせることが出来る。でもわかってくれよ。これでも僕は苦しいんだ。苦しんでいるんだ。僕のことをわかるだろ？君は」

「死ね」

その怒りは空中に捨てられる。その悲しみは地中に埋められる。そのやるせなさは槍となつて放り投げられて車にひかれる。その不平等感は宇宙に放流させられて頭をおかしくされる。酸素欠乏症。人は生まれつき様々が不平等で社会は否応なく上から目線で個人をたたきのめす。膨大なる世間が一人を無知だと決め付け、社会的立場が上であれば資本で相手を叩きのめすことだって可能になると暗に子どもに感じたあなたは、力を得ることだけをただただ祈り他人をロンパする術としての刃ばかり磨いて、それを剣にした。

それがいけなかったのだろうか、と打ちひしがれている暇はない。今日もあなたには刃が叩きつけられる。より鋭利な、強力な鍛冶屋に叩いてもらった刃は、恐ろしいほどに切れ味が良い。

君は思う。

「僕にも優秀な鍛冶屋がいてくれたなら、こんななまぐらの刃で戦わされている僕には、毎日、苦痛ばかりが攻めかかってくる。あいつらはなんなんだ。なんであいつらはあんなにも無感情なんだ。あんなにも心が無いんだ。徹底的な迫害。あいつらは金があるのに、

僕よりも心が冷たい。そのことが実に不平等だ。あいつらはもつと緩やかになるべきなのに、今日もあいつらは他人から蹴落とされることに怯えて心の刃を鋭くしている。僕はこんなにも恵まれない位置付けにいるというのに、鍛冶屋に恵まれたあいつらは、今日も鋭い刃で僕を切りつける。見て御覧僕の有様を」

彼は自らの傷を全世界に「苦痛」というタグを貼って送りつける。その様は実に荒々しく、傷ばかり。見る者にたしかに苦痛を感じさせる。その刃。しかし、たしかに彼には真実があった。彼なりの。そんな彼が何かを欲している。何かを欲して、他人に甘えたいと願う。

そんな彼にまた刃が降りかかる。鋭利になって、突き刺してくる。その刃は銀色に輝いていて血をこびりつける。

全てが無情で、全てが非情。それが普通として、ある現実。

怒りに塗れた君は、もうわけがわからない。

だから欲している。欲しているものが何かは、本当は何かなのかもうわかつている。

君は自分自身に力が欲しい。他人の力なんて本当は欲しくない。自分の力を世間に認めさせてやりたい。

ずっと発信している君の苦痛のタグ。それを誰も受け取ったりなどしない。みんながそれを遠目に見るだけだ。眺めるだけだ。笑われても文句は言えない。君は苦痛というタグを貼り付けているから。生まれた時はみな赤ん坊だったが、大人になるにつれて不平等の鉛に締め付けられて見えない鎖となり、君をその場に拘束する。

そこから逃れたい君を鎖は放さない。どこまでいっても放さない。もう逃げ出すことは不可能。斬らない限りは。なまぐらの刀。

自らが鍛冶屋になるしかもう道は残されていない。

もしくは、そのなまぐらの刀で自らを斬りつけるか。切れ味の悪いそれで何度も自らを斬るか。そのどちらかだ。

そのどちらからも逃れたいならばどうすればいいのか。
そんなの誰にもわからない。

勝手に死ぬ。それが本当の世の中の声だ。
救世主はいまだ、現れない。

どうすればいいかなんて他人にわかるわけではない。
そんなことは誰でもわかっていないことではない。

誰かは、他人がなんとかしてくれると思っている。

そんなヤツラを出し抜くための刃を振り下ろすことが俺たちに出
来る唯一の行いだ。だけど、その道行く途中、お互い敵になる。

敵になる。敵になるから、味方ではない。

でもゲシュタルト崩壊させてしまえばいい。お笑いはそのために
ある。

意味が消え去り、笑いに変わるその時、人々は敵を失くし味方を
無くす。笑えばいい。とりあえず笑っとけばいい。

それが無理なら、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7694p/>

呼吸するしかない

2011年11月13日00時11分発行